

## 特別支援学校における地震防災管理の質的改善を目的とした教員研修の工夫

研究代表者 和歌山大学教育学部 此松 昌彦  
共同研究者 和歌山大学教育学部附属特別支援学校 鶴岡尚子・西本一史・  
清水祐野・入學遼治

### 1. はじめに

今まで大規模災害時での特別支援学校のあり方について、東日本大震災時の状況などを学んで、職員や保護者ともワークショップや講義などで共有してきた<sup>1)2)</sup>。そこで今年度の研究では大規模な災害が発生すれば必ず設置される避難所について、教職員がどんな日常が発生、どんな対応をしないといけない場所なのかをイメージできる図上訓練を行なったので報告する。

将来に発生することが心配される南海トラフ地震が発生すれば、和歌山市内においても甚大な被害が想定されている。具体的には和歌山県地震被害想定調査報告書<sup>3)</sup>によると和歌山市内においては3連動地震で最大震度が6弱となり、巨大地震では最大震度7が想定されており、津波などによる建物倒壊なども含めると県内では最大の全壊数が想定され、県内自治体では一番の避難者数(3連動地震:約13万人、巨大地震:約23万人)の想定になっている。このことから和歌山市内をはじめ、各自治体では避難所の場所を決めている。

和歌山大学教育学部附属特別支援学校においては公的な避難所には指定されていないが、児童生徒が学校内に滞在中に大規模な災害が発生することが想定される。また児童生徒が自宅付近の避難所で生活することも想定される。その時に現在の教職員はまず避難所ではどんな場所なのか、どんな行動をする必要な場所なのかイメージをつけることができていない。そこで今回は特別支援学校の児童生徒がどんな状態で苦勞するのかをイメージできるようなトレーニングを試行してみることにした。

その図上訓練では静岡県で開発された避難所運営ゲーム HUG<sup>4)</sup> を使いました。一般の方が避難所運営と言われてもすぐにできるものではないので、まずはどんなことが発生し、どんな判断をすぐにしなければいけないのかをイメージトレーニングさせるゲームであり、避難所運営訓練を地域で行うための初歩的なゲームである。

### 2. HUG について

この避難所運営ゲーム HUG は静岡県において2007年に開発されたゲームで自主防災会や自治体職員などでよく行われている。HUG については開発者のホームページ<sup>5)</sup> などもあり、そこには市販されている以外の風水害バージョン、要配慮者バージョンなど多様なバージョンについても紹介されている。

HUG ではある小学校が避難所として設定され、避難者の年齢や性別、国籍、それぞれの事情が書かれたカードを体育館の大きな平面図に自分たちで作った避難所のルールごとに並べて置いていく。要配慮者には学校の敷地図、校舎間取図、教室各ごとのシートを利用してプレイヤーたちで決めたそれぞれのルールのもとに各教室などを準備することになる。また避難所で発生する出来事の書かれたカードも含まれており、その都度プレイヤーは対応しなくてはいけなくなる。プレイヤーはたくさんの項目に対応しなくてはいけなくなる



写真1 HUG の実践時

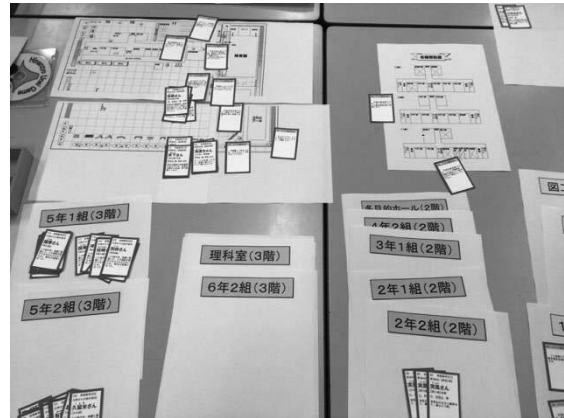


写真2 教室ごとにカードの配置

のだ。

### 3. 特別支援学校での実践

12月22日に附属特別支援学校においてHUGを筆者を含めて教職員の保体部メンバーと実践した。

その時の実践時の写真を写真1と写真2として載せている。

- 1) 始めるときにカードゲームではカードの読み上げ係を決める  
此松が担当した。
- 2) テーブルに大きな体育館の配置図をおいて、それ以外の敷地図、間取図、教室シートなどの用紙を置いておきます。
- 3) ゲームの設定条件を説明する  
震度、気象条件、季節、時間、被災状況など
- 4) ゲームを開始する

読み上げ係がカードを読み上げながら、対応を考えていく。

最初には体育館の配置を相談する。このカード1枚は1.5mX2.0mで面積が3平方メートルのスケールになっている。避難者一人当たりの必要面積になる。そのため標準的な大きさの体育館のスケールで体育館のスケールも作成されている。

(どのように配置するかも自分たちでルールを決めていくので、多様な判断を即座にすることになる。正解があるわけではないので、地域の特性にあわせて判断することになる。)

例えばペットを連れてきたときにどうする。

外国人の団体さんがきたら。

病気の方が入り家族の場合はなど多様な状況判断が必要になる。

### 4. HUG の感想

・自分が避難所を運営する側になることで、避難所に来られた人のことを考えて運営するのは相当難しいように思いました。運営する側(保体部メンバー)の中でも、いろんな考え・

意見があるので、まとめる長が絶対必要だと思いました。リーダーって大変ですね。

・避難してくる人や様々な問題は尽きないので、最善策を考えるのはとても難しく、大変なことだと思いました。

・HUGが静岡県で開発されたものであるということで、設定などイメージしにくいワードが出てくる違和感がありました。(省略)結論から言えば、和附特(注:和歌山大学附属特別支援学校)版のHUGがあれば、今後研修に取り入れていくのであれば、内容が充実するように思いました。

・今まで自分が被災した時に避難することしか考えていなかったのが、今回運営する側になって様々な問題を抱えて避難所に来た人の考えることはとても難しかったです。けれど、運営する側の人達とHUGで研修を何回か繰り返し行う事で、色々なパターンでの最善策を考えやすいようになるのではないかと思います。

・実際に避難所を運営している側のことを考えられたのでよい機会になった。自分たちの学校で避難所を運営することや、避難したときにどうすればよいかとなど自分たちのこととして考えていく必要があると感じた。

・災害時、どんな状況でどんなことが想定されるのかを考えるきっかけになりました。静岡の土地で作られていたり、名前が独特だったりしたので、いまいちピンと来なかった。和歌山(和附特)バージョンがあったらよりリアルに考えられてよいと思いました!

## 5. 今後への課題

HUGを使った和歌山大学附属特別支援学校での設定をした職員対象の研修を行いたいという声もあることから、特別支援学校バージョンでの作成を目指していきたい。特に支援学校の児童生徒で発生しそうな状況を取り入れて作成してみたい。

## 参考文献

- 1) 此松昌彦・鶴岡 尚子・松下 敦也・入學 遼治・清水 祐野・一ツ田 啓之 特別支援学校における地震防災管理の質的改善を目的とした教員研修の工夫 和歌山大学教育学部共同研究事業成果報告書 167-171. 2018
- 2) 此松 昌彦・鶴岡 尚子・入學 遼治・清水 祐野・一ツ田 啓之 特別支援学校における地震防災管理の質的改善を目的とした教員研修の工夫 和歌山大学教育学部共同研究事業成果報告書 154-157. 2019
- 3) 和歌山県 和歌山県地震被害想定調査報告書, 2014 [https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/d00153668\\_d/fil/wakayama\\_higaisoutei.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/d00153668_d/fil/wakayama_higaisoutei.pdf)
- 4) 静岡県地震防災センター HUG ってなあに? <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/manabu/hinanjyo-hug/about.html>
- 5) HUG のわ <https://www.hugnowa.com>